

# エコアクション21

## 環境活動レポート

(平成21年 1月 ～ 平成21年12月)



平成22年 5月 9日

有限会社 野中建設

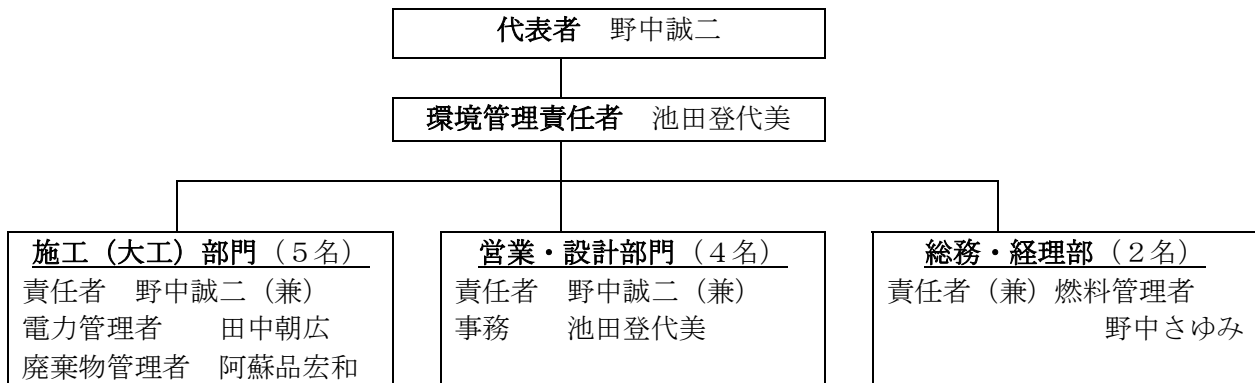
熊本県山鹿市津留1774

## I. 会社概要

No.	項目	内容
1	会社名	有限会社 野中建設
2	代表者	代表取締役 野中誠二
3	所在地	本社・倉庫：熊本県山鹿市津留1774 資材置場：熊本県山鹿市津留1965-4
4	連絡先	TEL：0968-43-3028 FAX：0968-43-8750 e-mail：nkoukis@muse.ocn.ne.jp
5	担当者	環境管理責任者 池田登代美
6	事業内容	総合建設業 一級建築士事務所
7	資本金	2000万円
8	従業員数	10～11名（役員含）
9	敷地面積	事務所（295.26㎡）、倉庫（230.48㎡）、資材置場（1,046.00㎡）
10	売上高	145,293千円（平成20年1月～12月）
11	沿革	昭和24年5月 野中建設として事業開始（創業） 平成4年1月 有限会社 野中建設として法人化（設立） 平成15年4月 代表取締役の交代

## II. 環境取組実施体制

### 1. 組織図



### 2. 役割・責任・権限

No.	責任者	主な業務内容及び責任と権限
1	代表者	①当社の環境マネジメントの最高責任、②環境方針の制定、 ③環境目標及び環境活動計画の承認、④代表者による評価の実施
2	環境管理責任者	①エコアクション21の要求事項に適合した環境マネジメントシステムの構築、 実施、維持、②環境目標及び改善計画の立案と実施、③外部からの苦情の窓口、 ④教育の実施、⑤環境問題解決及び検証の総括
3	営業	①エコアクションの環境活動の紹介、②燃料使用量の削減
4	設計	①長寿命化への配慮、②環境に有害な物質の使用排除
5	施工	①廃棄物のリサイクル化の推進、②燃料使用量の削減
6	経理	①電気使用量の削減、②電気・燃料の使用量データの管理、③節水
7	実行責任者	環境目標達成に向けた取組の推進

### Ⅲ. 環境方針

#### 《基本理念》

有限会社 野中建設は、昭和24年の創業以来、技術の伝承で木造建築を主な作品とし、日本古来の文化である木造建築物の長寿命化を念頭に、人にとっての快適な住環境を整備すると共に、地域との共生を図り、緑豊かな地球環境の保全とその継承の重要性を認識し、会社及び社員が一丸となって、継続可能な循環型社会の構築に貢献することを基本理念とします。

#### 《方 針》

有限会社 野中建設は、建設業としての事業活動を通して継続的な環境負荷の削減に取り組むために、次の環境方針に基づき環境マネジメント活動を推進して地域の環境保全に貢献する企業を目指します。

1. 当社の業務運営に関わる環境影響を常に認識し、環境汚染の予防を推進するとともに、環境マネジメント活動の継続的改善を図ります。
2. 当社に関連する環境関連法規制などの要求事項を順守します。
3. 当社の事業活動に係わる環境影響のうち、以下の項目を環境経営重点テーマとして取り組みます。
  - (1) 伝統木造住宅（エコ住宅）の普及とリフォーム工事の推進
  - (2) 建築材料の有効活用
  - (3) 工事現場における廃棄物削減のための3Rの推進（再活用・リサイクル・減らす）
  - (4) 工事現場及び事務所における省エネ・省資源活動の実施
  - (5) 建物の長寿命化のための設計・施工の研究
4. すべての社員が環境負荷低減活動を積極的に実践できるように、この環境方針を全従業員に周知します。

上記の方針達成のために、目標を設定し、定期的に見直し、環境改善活動を推進します。

改定日 平成19年7月1日  
有限会社 野中建設  
代表取締役社長 野中 誠二

## IV. 環境目標とその実績

### 1. 実績

No.	区分	19年度目標	20年度目標	21年度目標
1	二酸化炭素排出量	電気使用量の削減 (H17年度実績をベースに1%減)	(H17年度実績を ベースに2%減)	(H17年度実績を ベースに3%減)
2	同上	建設車両、建設機械の燃料の削減 (H17年度実績をベースに2%減)	(H17年度実績を ベースに3%減)	(H17年度実績を ベースに4%減)
3	産業廃棄物のリサイクル化	ボード類の100%リサイクル化	ボード類の100%リサイクル化 (別品目の可能性も探索する)	ボード類の100%リサイクル化 (別品目の可能性も探索する)

年度 項目	H17年度	H18. 11～H19. 3 (試行期間)		H19年度		H20年度		H21年度	
	実績	5ヶ月目標 (17年度比)	5ヶ月実績 (11～3月)	目標 (17年度比)	実績 (17年度比)	目標 (17年度比)	実績 (17年度比)	目標 (17年度比)	実績 (目標値比)
二酸化炭素排出量 (kg-CO2)	36411	15380	12403	35760	31828	34102	36987	34994	36063
電気使用量 (kWh)	20120	(-1%)	(-22.4%)	(-1%)	(-10.36%)	(-2%)	(-1%)	(-3%)	(+17.08%)
ガソリン・軽油 (L)	11536	(-2%)	(-19.8%)	(-2%)	(-14.38%)	(-3%)	(+6.2%)	(-4%)	(+2.56%)
廃棄物リサイクル化 (%)	—	計測 調査	計測 調査	ボード類 100%	ボード類 100%	ボード類 100%	ボード類 100%	ボード類 100%	ボード類 100%

### 2. 解説

#### 1) 総排水量（水使用量）

- ①当社及び周辺は、上水道が整備されているが、地下水を自社で汲み上げて使用しております。現場においては、仮設トイレ（汲み取り）を使用しております。
- ②現状では、水道メーターがなくデータもありません。従って、総排水量は実績が把握出来ないために目標設定ができません。しかし、従来通り節水に取り組んでおります。

#### 2) 本業における目標

- ①「環境方針」に定めてある「環境経営重点テーマ」のうち、「伝統木造住宅(エコ住宅)の普及とリフォーム工事の推進」及び「建築材料の有効活用」は、当社の事業活動として既に実施済のため、目標としてではなく維持管理すべきものとして取り組んでおります。

#### 3) 目標の見直しについて

- ①平成19年1月より電動シャッターを新設し、新たに40Aの契約をしたため、目標の見直しをしました。
- ②これにあわせて、二酸化炭素の排出量の適正な評価をするために、平成17年度の二酸化炭素排出量の実績値も見直しました。
- ③平成20年1月より軽油車両1台をガソリン車両に入れ替えたため、目標の見直しをしました。これにあわせて、二酸化炭素の排出量の適正な評価をするために、平成17年度の二酸化炭素排出量の実績値も見直しました。
- ④平成21年10月より事務所を増築しました。これにあわせて、次年度以降の二酸化炭素の排出量の適正な評価をするために、平成17年度の二酸化炭素排出量の実績値を見直す必要が出てきた。

## V. 主要な環境活動計画の内容

### 1. 工事現場における廃棄物削減のための3R

- 1) 再活用・・・学校行事への廃材の寄付
- 2) リサイクル・・・プラスターボードのリサイクル化  
(ボード類の適正な業者への100%リサイクル化推進)
- 3) 減らす・・・上記の活動を通じて廃棄物の削減に努める。

### 2. 工事現場及び事務所における省エネ・省資源活動の実施

- 1) 電力
  - ①空調温度の適正管理
  - ②エアコンのフィルターを定期的に清掃する
  - ③不要な照明器具の消灯確認する
  - ④パソコンのスタンバイ機能を活用する
- 2) 燃料
  - ①アイドリンクストップを励行する
  - ②急発進、急加速、急ブレーキの撲滅
  - ③オイル交換・オイルエレメント交換の定期的な実施
- 3) 水
  - ①水を使用する場合は、流しっぱなしをやめ、水量を調節し節水をする

### 3. 建物の長寿命化のための設計・施工

- 1) 建築設計時の環境配慮の実行
  - ①プラスターボードから木品材料の使用推進
  - ②建物・立地条件にマッチした適切な断熱材の選定
  - ③建物にマッチした適切な設備の選定

## VI. 環境活動への取組結果の評価

### 1. 工事現場における廃棄物削減のための3R

- 1) 再活用
  - ①廃材を学校行事で使いたいといわれたので、再活用してもらう為にも寄付した。  
今後も積極的に学校行事へ廃材の寄付をしていく。
- 2) リサイクル
  - ①当社は、産業廃棄物としてボード類・コンクリートがら・木屑・金属屑を排出しているが、リサイクル化に向け委託業者の調査を平成18年11月～平成19年3月まで実施した。
  - ②その結果、ボード類の100%リサイクル化の可能性がでてきた。  
よって平成19年4月からはこの実現化に向けて取り組んできた。
  - ③リサイクル化に向けた業者調査前は、ボード類のリサイクル率が0%だったのが、平成19年4月からはボード類のリサイクル率は100%となった。
  - ④今後もボード類の100%リサイクル化の定着に取り組んでいくとともに、ボード類の適正な業者への100%リサイクル化推進に努め、1人1人がリサイクル化への意識を高め、他品目の100%リサイクル化も探索していく。
- 3) 減らす
  - ①上記の再活用・リサイクルの活動を通じて廃棄物の削減に取り組んできた。  
今後もこの活動を通じて廃棄物の削減に努めていく。

## 2. 工事現場及び事務所における省エネ・省資源活動の実施

### 1) 電気

電気については、目標17年度比3%削減に対して、平成21年度はプラスの17.08%と目標値を大きく上回ってしまいました。原因として考えられるのが2つあります。

①まず1つ目は、大きなお寺の物件を去年～今年にかけて手がけたのをはじめ、お寺だけでも他に数件、また新築の物件も数件ありました。

そのため木材も大きいのから小さいのまで幅広く使用し、木材の量も多いのもあって、加工にも時間がかかり機械等の稼働時間が長くなった為だと思われます。

②そして2つ目は事務所を増築した事に伴い電力消費量が増えた為だと思われます。

これにあわせて平成22年度以降の二酸化炭素排出量の適正な評価をする為に、平成17年度の二酸化炭素排出量の実績値を見直すと共に、工事物件により機械の稼働時間が変動しますが、今後もエコアクション21の意識を持ち、全社員で節電に取り組んでいきます。

### 2) 燃料

燃料については、目標17年度比4%削減に対して、平成21年度はプラスの2.56%と目標値を上回ってしまいましたが、平成17年度実績値と比べると1.48%削減できました。

①21年度の目標達成できなかった原因としましては、上記にも書いてるように去年に引き続き今年度も木材の仕入れ・加工等で遠方へ行ったりしたため、自動車走行距離が長くなる＝燃料使用量が増えたからだと思われます。

②今後も、工事物件の大きさや、工事現場によって自動車の稼働回数が変わる為燃料の使用量が変動しますが、これからも全社員がエコアクション21の意識を持って、各自の環境を考えたちょっとした心遣いと行動（アイドリングストップ、急発進・急停止の自粛など）＝エコドライブに取り組んでいきます。

### 3) 水

総排出量につきましては、弊社は、上水道ではなく、地下水を自社で汲み上げて使用しており、実績が把握出来ない為目標設定ができませんでした。

しかし、今後も全社員で節水の意識をもち、従来通り節水に取り組み削減に努めていきます。

## 3. 建物の長寿命化のための設計・施工

### 1) 建築設計時の環境配慮の実行

①建築設計時に環境に有害な物質の使用排除をし、環境配慮したプランを考え、環境配慮を考えた材料の使用推進をしてきました。

②お客様への提案時に当社がエコアクション21を取得し、環境活動をしている事を紹介し、お客様との打合せ時及び施工中も適切な材料と設備の提案をしてきました。

③今後も建物の長寿命化・継続的な環境負荷の削減に取り組んでいくためにも、環境配慮を考えたプランを推進していきます。

## Ⅶ. 平成22年度以降の環境目標の見直し

### 1. 環境目標の設定

- 1) 今年で設定していた環境目標期間の3年が終了しました。  
その結果を踏まえ、次年度以降の中長期目標を見直し、更新審査に合わせて新たな目標に向けて取組を進めていきたいと思っております。
- 2) 過去3年間（平成19～21年度）の環境目標の実績をみると、平成19年度は大幅に目標達成できましたが、平成21・22年度は目標達成できませんでした。  
主な原因として、
  - ①工事内容・受注件数により機械等の稼働時間が長くなった
  - ②工事場所・工事内容により自動車の走行距離が長くなった
 以上の2点があげられます。
- 3) 次年度以降も工事内容・件数・工事場所により変動することが十分に考えられますが、過去3年同様平成17年度の実績数値を基準として設定します。
- 4) ただし、「車両の入替」「事務所増築」に伴い、二酸化炭素排出量の適正な評価をするために平成17年度の二酸化炭素排出量の実績値を見直し、見直した数値を基準にします。

No.	区分	22年度目標	23年度目標	24年度目標
1	二酸化炭素排出量	電気使用量の削減 (H17年度実績をベースに1%減)	(H17年度実績をベースに2%減)	(H17年度実績をベースに3%減)
2	同上	建設車両、建設機械の燃料の削減 (H17年度実績をベースに2%減)	(H17年度実績をベースに3%減)	(H17年度実績をベースに4%減)
3	産業廃棄物のリサイクル化	ボード類の100%リサイクル化 (別品目の可能性も探索する)	ボード類の100%リサイクル化 (別品目の可能性も探索する)	ボード類の100%リサイクル化 (別品目の可能性も探索する)

項目	H17年度		H22年度		H23年度		H24年度	
	実績	目標 (17年度比)	実績 (目標値比)	目標 (17年度比)	実績 (目標値比)	目標 (17年度比)	実績 (目標値比)	
二酸化炭素排出量 (kg-CO2)	35984	35350		34991		34632		
電気使用量 (kWh)	22520	(-1%) 22296		(-2%) 22070		(-3%) 21844		
ガソリン・軽油 (L)	11536	(-2%) 11306		(-3%) 11191		(-4%) 11076		
廃棄物リサイクル化 (%)		ボード類 100%		ボード類 100%		ボード類 100%		

### 2. 解説

- 1) 総排出量（燃料）
  - ①「車両の入替」「事務所増築」に伴い、二酸化炭素排出量の適正な評価をするために平成17年度の二酸化炭素排出量の実績をもとにした指標にしています。
- 1) 総排水量（水使用量）
  - ①当社及び周辺は、上水道が整備されているが、地下水を自社で汲み上げて使用しております。現場においては、仮設トイレ（汲み取り）を使用しております。
  - ②現状では、水道メーターがなくデータもありません。従って、総排水量は実績が把握出来ないために目標設定ができません。しかし、従来通り節水に取り組んでおります。
- 2) 本業における目標
  - ①「環境方針」に定めてある「環境経営重点テーマ」のうち、「伝統木造住宅(エコ住宅)の普及とリフォーム工事の推進」及び「建築材料の有効活用」は、当社の事業活動として既に実施済のため、目標としてではなく維持管理すべきものとして取り組んでおります。

## VIII. 平成22年以降の主な環境活動計画の内容

前述の「V. 主要な環境活動計画の内容」に従って、実施します。

内容の変更は特にありませんが、設計時の環境配慮とE A 2 1の意識を持つことを重点とし、今後も全社員で環境活動内容に取り組んでいきます。

## IX. 環境関連法規制等の順守状況・環境苦情等の有無

### 1. 過去3年間における実績

- 1) 環境関連法規制などの違反はありませんでした。
- 2) 関係機関からの指摘・訴訟などはありませんでした。
- 3) 利害関係者からの環境苦情などはありませんでした。

### 2. 今後も環境関連法規等の順守、及び環境苦情の撲滅に努めます。

## X. その他

下の写真は、当社所在地の山鹿市にある「重要文化財八千代座」の外観と天井部分です。当社は、この建物の修復工事の施工をさせて頂きました。当社では、環境方針の通り「重要文化財」などを次世代へ継承することも行っています。



以上